

大型積ブロック「しずか」施工要領書

平成 29 年 7 月 4 日



株式会社 総 合 開 発
コンクリート事業部

- (1) 設計図書に基づき床堀を行い、基礎材（砕石）の撒出し転圧を行う。
- (2) 基礎材の上に均しコンクリートを施す。この際、勾配 1 : 0.5 で根石ブロックを使用する場合は、均しコンクリートとブロックのずれ防止のため図-1、写真-1 に示す挿入鉄筋を設置する。勾配が 1 : 0.5 以外の場合は、現場で勾配に合わせ基礎コンクリートを打設する。

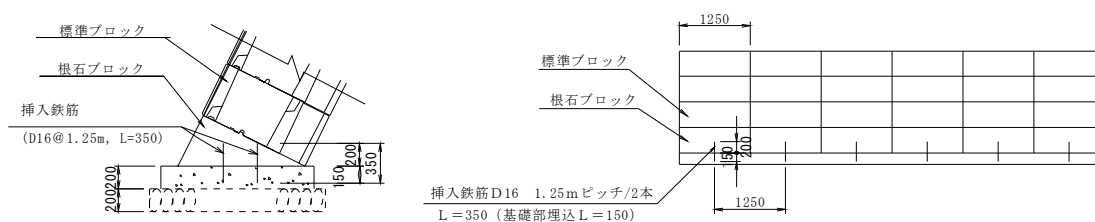


図-1 勾配 1 : 0.5 の場合



写真-1 勾配 1:0.5 の場合

- (3) 専用の吊り金具（デーハーカプラー 1t 用）を使用し、根石ブロックをクレーンで吊り上げブロックが破損しないように、注意して静かに基礎コンクリート上に据え付ける図-2。この時、前面天端を合わせると曲線対応のため、図-3 に示すように前壁にブロック同士若干の隙間が生じる。

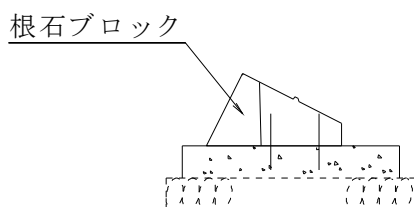


図-2 根石ブロック設置

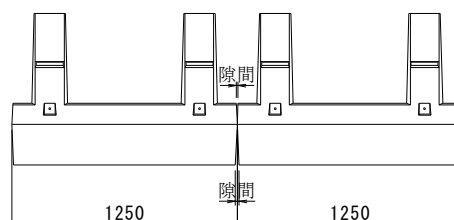


図-3 根石ブロック設置平面図

- (4) 根石ブロックの施工が終えたら、図-4 に示すように標準ブロックを根石ブロックの上に突起のかみ合わせを合わせ、丁張・水系を基準に据え付ける。
- 標準ブロックには、スリットの化粧面があるため、製品の前後の位置は、面取り部分で合わせ、水系の位置は図-5 のようにする。
- 微調整は図-6 に示す側壁下のパール用溝で行う。ブロックの勾配管理はブロック前面に測定器具を当てて行う。
- ブロック同士の接触面は石等を噛まないように注意する。ブロック 1 個当たりの施工伸びは、法長・延長ともに 1～3mm 程度生じる。

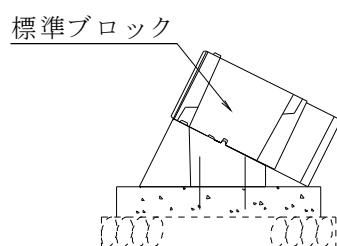


図-4 標準ブロックの設置図

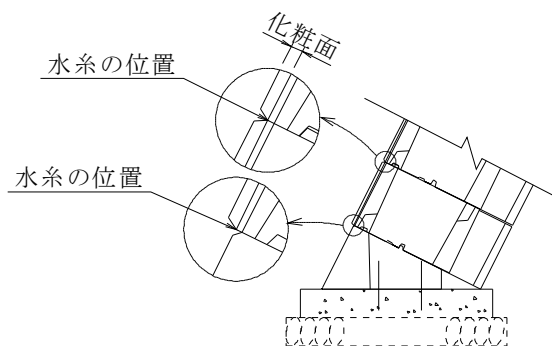


図-5

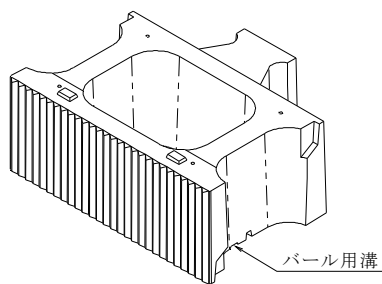


図-6 パール用溝

- (5) 標準ブロックの据え付けを終えたら、良質土で埋戻し、胴込めコンクリートを投入する図-7。必要に応じて水抜きパイプを設置する。また、650 型、1000 型の場合および、650 型、1000 型において裏込めコンクリートが必要な場合は写真-2、3 に示すように所定寸法となるよう、裏型枠（抜き型枠）を設置し施工する。

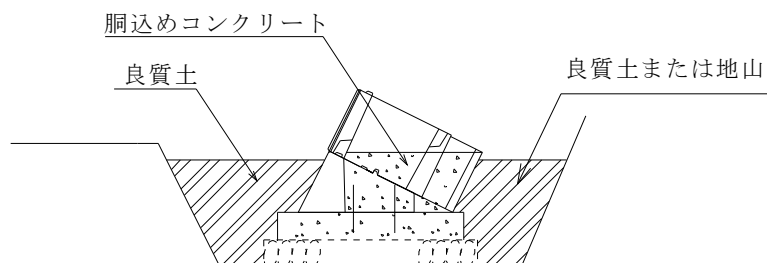


図-7 胴込めコンクリート打設



写真-2 1000 型



写真-3 1000 型+裏コン

- (6) 3 段目以降も同様の施工を繰り返し、所定の積み上げ段数に至るまで同様の作業を繰り返す。図-8、写真-4

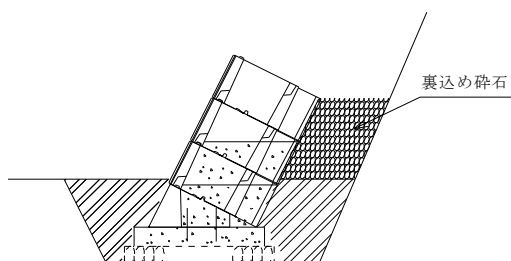


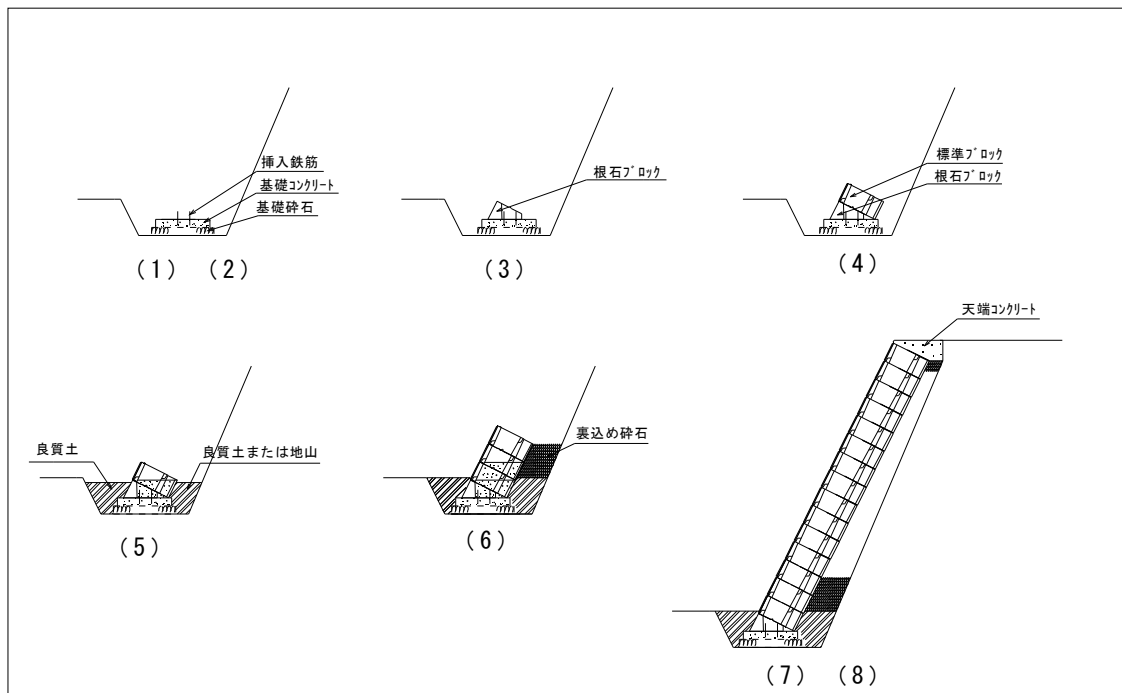
図-8 3 段目以降



写真-4 3 段目以降

(7) 天端コンクリートを打設する。

(8) 完了



施工手順